

## 超高齢社会に対応した生涯学習の在り方の取りまとめ骨子案

### 1 超高齢社会の現状について検証する。

より現実的・実践的な検討を行うためには、まず、本県の高齢化がどのような状況であるのか、高齢者が生涯学習をどのように感じているのかを把握することが必要

#### ① 本県における高齢化の状況

- ・地域ごとの状況（現在、将来）
- ・世帯構造別の状況

【国勢調査等、各種統計調査から把握】

#### ③ 生涯学習に関する県民の意識

- ・超高齢社会に対するイメージ
- ・学習活動への参加意向（実態）
- ・自主的な活動と生きがいの関連
- ・世代間交流への参加意向 など

【今後行うアンケート調査から把握】

#### ② 本県における地域活動の状況

- ・年代別、男女別、地域別の状況

【県政世論調査から把握】

### 2 超高齢社会における生涯学習の意義と役割を整理する。

生涯学習の在り方を検討するために、生きがいの創出、地域が抱える課題解決への担い手の育成、健康の維持など、その意義と果たす役割について、整理しておくことが必要

### 3 高齢社会に対応した本県の取組の現状を確認する。

本県の高齢者対応のための取組を検証

- ①教育的な取組（生涯学習からの取組）
- ②福祉的な取組（医療、福祉からの取組）
- ③その他の取組

### 4 県内外の先進的な取組、成功事例などを調査する。

学習機会の提供、ボランティア活動などへの参加推進事業や世代間の理解促進のための交流活動など、県内外の先進的な事例を調査、収集

### 5 超高齢社会の進展に対応した生涯学習の在り方を提言する。

上記1～4を踏まえた上で、次のような視点から今後の施策を取りまとめる。

- ①高齢者に対する魅力ある学習機会の提供
- ②高齢者の学習を通じた地域社会への参加推進
- ③世代間の理解を促進するための交流活動事業
- ④その他事業